

地方創生対策 特別委員会において

「地方」そこにしかない魅力をいかに広く、深く伝えるかがカギ!
持続的な地域産業、生活ができる環境整備が必要である

●公共交通維持

徳島県では、買い物や病院に通う「生活の足」は車が主であり、今後は公共交通の維持・拡大が課題

→JR牟岐線で導入された「パターンダイヤ」の成果を検証し、今後他の路線への拡大や、路線バスなどとの接続拡大を要望。また鉄道とバス等の乗継ぎ地点(結節点)となる駅やその周辺、駅への進入道路(停車場線)の整備が必要【県道羽ノ浦停車場線他】

●ターンテーブルの運営・効果について(徳島県情報発信拠点・東京都渋谷)

オープン1年を過ぎ、収支が赤字となった原因(宿泊・利用者の現状分析)について

情報発信効果、他県アンテナショップの経費等現状とその違いについて

→宿泊については順調だが、レストランメニュー設定が問題(6月からメニュー変更)

他県アンテナショップの立地場所と賃貸料を考えると、広告料・情報発信力としては有効

・周辺店舗への県産品の販路拡大や、徳島県への旅行客増加のためのPRはまだまだ必要!

●放置竹林対策

放置竹林の拡大により、既存植林への被害拡大、治山力・保水力の低下、鳥獣被害発生などが問題

→タケノコ、穂先タケノコの活用・6次産業化(国内の国産タケノコ水煮のシェアはわずか1%程度)により、もうかる産業へ発展、竹林の手入れも進む

・6次産業化への加工、デザイン、販路拡大への支援(プランナー、アドバイザー)が必要

●県外視察より



福井県立恐竜博物館

◀平成12年開設当初、年間25万人の入場者を想定していた恐竜博物館。今では年間100万人を突破するほどの観光施設となっている。新幹線開通の影響もあるが、県で発掘された「フクイラプトル」の活用に加え、多くの化石を購入し、化石発掘体験やクリーニングの公開、教育普及活動など、楽しく学べる施設となっている。勝浦町で発見されている化石も、今後このような学習・観光施設に発展するものと期待している。

前身である京福電鉄の2度の事故で、電車の運行が停止したことにより、住民が改めて電車の重要性を認識。沿線住民の熱い想いで、設立された鉄道。県・沿線市町村の支援に加え、地域の人々も会員となり、駅周辺の清掃などにも取り組んでいる。高齢者の乗客の乗降補助や観光案内など、ソフトのバリアフリー化のため「アテンダント」が乗車。本県でも鉄道・バス維持のため、住民の関心を高める必要がある。▶



えちぜん鉄道株式会社

●「#7119」開設

救急相談ダイヤルが令和元年12月より開設しています。夜間や休日、急な病気やケガで受診を迷った時にアドバイスが受けられます。15才未満の子どもも用相談ダイヤル「#8000」と合わせて活用ください。

詳しくは→
保健福祉部
医療政策課



お知らせ

●四国横断道 羽ノ浦トンネル着工へ

四国横断自動車道、小松島市櫛渕に「地域活性化IC」の接続許可が下り、令和2年より羽ノ浦トンネルの掘削工事が櫛渕側から始まります。

令和4年度には貫通する見込みで、阿南IC～立江櫛渕ICの先行供用をする予定です。残りの区間の早期着工、供用開始を引き続き求めて参ります。

